

連結貸借対照表

(令和2年3月31日現在)

(単位:千円)

科目名	金額	科目名	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	108,443,696	固定負債	53,278,868
有形固定資産	104,488,409	地方債等	35,437,078
事業用資産	37,930,278	長期未払金	-
土地	18,720,188	退職手当引当金	3,177,234
土地減損損失累計額	-	損失補償等引当金	-
立木竹	7,396	その他	14,664,556
立木竹減損損失累計額	-	流動負債	5,808,915
建物	54,585,492	1年内償還予定地方債等	4,307,972
建物減価償却累計額	-36,401,582	未払金	878,778
建物減損損失累計額	-	未払費用	-
工作物	1,493,811	前受金	15,982
工作物減価償却累計額	-483,014	前受収益	-
工作物減損損失累計額	-	賞与等引当金	349,408
船舶	-	預り金	256,775
船舶減価償却累計額	-	その他	-
船舶減損損失累計額	-	負債合計	59,087,783
浮標等	-	【純資産の部】	
浮標等減価償却累計額	-	固定資産等形成分	110,047,194
浮標等減損損失累計額	-	剰余金(不足分)	-53,459,899
航空機	-	他団体出資等分	-
航空機減価償却累計額	-		
航空機減損損失累計額	-		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
その他減損損失累計額	-		
建設仮勘定	7,987		
インフラ資産	66,330,380		
土地	6,368,296		
土地減損損失累計額	-		
建物	1,626,648		
建物減価償却累計額	-728,620		
建物減損損失累計額	-		
工作物	106,744,504		
工作物減価償却累計額	-49,851,912		
工作物減損損失累計額	-		
その他	3,691,283		
その他減価償却累計額	-2,741,161		
その他減損損失累計額	-		
建設仮勘定	1,221,342		
物品	922,902		
物品減価償却累計額	-695,152		
物品減損損失累計額	-		
無形固定資産	1,728,349		
ソフトウェア	14,759		
その他	1,713,590		
投資その他の資産	2,226,938		
投資及び出資金	50,983		
有価証券	-		
出資金	50,983		
その他	-		
長期延滞債権	2,053,003		
長期貸付金	8,161		
基金	956,730		
減債基金	-		
その他	956,730		
その他	903,250		
徴収不能引当金	-1,745,189		
流動資産	7,231,382		
現金預金	4,882,768		
未収金	775,301		
短期貸付金	-		
基金	1,603,498		
財政調整基金	1,192,191		
減債基金	411,307		
棚卸資産	7,152		
その他	97,300		
徴収不能引当金	-134,636		
繰延資産	-	純資産合計	56,587,295
資産合計	115,675,079	負債及び純資産合計	115,675,079

連結行政コスト計算書

自 平成31年4月1日

至 令和2年3月31日

(単位:千円)

科目名	金額
経常費用	35,428,095
業務費用	15,259,159
人件費	5,535,687
職員給与費	4,573,619
賞与等引当金繰入額	344,128
退職手当引当金繰入額	221,710
その他	396,231
物件費等	8,531,388
物件費	4,114,804
維持補修費	237,170
減価償却費	3,559,977
その他	619,437
その他の業務費用	1,192,084
支払利息	526,120
徴収不能引当金繰入額	80,234
その他	585,730
移転費用	20,168,936
補助金等	6,067,224
社会保障給付	14,065,515
その他	24,517
経常収益	7,773,996
使用料及び手数料	3,288,300
その他	4,485,696
純経常行政コスト	27,654,099
臨時損失	263,412
災害復旧事業費	11,437
資産除売却損	250,974
損失補償等引当金繰入額	-
その他	1,001
臨時利益	216,806
資産売却益	214,405
その他	2,401
純行政コスト	27,700,705

連結純資産変動計算書

自 平成31年4月1日
至 令和2年3月31日

(単位:千円)

科目名	合計	固定資産等形成分	余剰分(不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	55,053,536	110,721,777	-55,668,242	-
純行政コスト(△)	-27,700,705		-27,700,705	-
財源	29,232,216		29,232,216	-
税収等	17,591,429		17,591,429	-
国県等補助金	11,640,786		11,640,786	-
本年度差額	1,531,511		1,531,511	-
固定資産等の変動(内部変動)		-676,832	676,832	
有形固定資産等の増加		2,859,230	-2,859,230	
有形固定資産等の減少		-4,023,756	4,023,756	
貸付金・基金等の増加		1,926,500	-1,926,500	
貸付金・基金等の減少		-1,438,806	1,438,806	
資産評価差額	-	-	-	-
無償所管換等	2,249	2,249		
他団体出資等分の増加			-	-
他団体出資等分の減少			-	-
比例連結割合変更に伴う差額	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
本年度純資産変動額	1,533,759	-674,583	2,208,343	-
本年度末純資産残高	56,587,295	110,047,194	-53,459,899	-

連結資金収支計算書

自 平成31年4月1日
至 令和2年3月31日

(単位:千円)

科目名	金額
【業務活動収支】	
業務支出	32,163,119
業務費用支出	11,994,583
人件費支出	5,772,430
物件費等支出	5,051,672
支払利息支出	526,120
その他の支出	644,360
移転費用支出	20,168,536
補助金等支出	6,067,224
社会保障給付支出	14,065,515
その他の支出	24,517
業務収入	35,833,612
税込等収入	17,245,249
国県等補助金収入	11,379,810
使用料及び手数料収入	3,277,297
その他の収入	3,931,256
臨時支出	12,438
災害復旧事業費支出	11,437
その他の支出	1,001
臨時収入	7,213
業務活動収支	3,665,268
【投資活動収支】	
投資活動支出	2,826,146
公共施設等整備費支出	1,736,292
基金積立金支出	1,084,492
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	5,363
その他の支出	-
投資活動収入	1,355,214
国県等補助金収入	370,983
基金取崩収入	745,782
貸付金元金回収収入	5,389
資産売却収入	233,461
その他の収入	-400
投資活動収支	-1,470,933
【財務活動収支】	
財務活動支出	4,282,469
地方債等償還支出	4,281,259
その他の支出	1,210
財務活動収入	1,792,230
地方債等発行収入	1,468,080
その他の収入	324,150
財務活動収支	-2,490,239
本年度資金収支額	-295,904
前年度末資金残高	5,117,291
比例連結割合変更に伴う差額	-
本年度末資金残高	4,821,387
前年度末歳計外現金残高	74,019
本年度歳計外現金増減額	-12,638
本年度末歳計外現金残高	61,381
本年度末現金預金残高	4,882,768

注記

重要な会計方針

- 有形固定資産等の評価基準及び評価方法□
開始時における有形固定資産等の評価は原則として取得価額とし、取得価額が不明なものは原則として再調達価額としています。
ただし、開始後については、原則として取得価額とし再調達は行わないこととしています。
また、物品については原則として取得価額または見積価格が50万円（美術品・骨董品は300万円）以上の場合に計上しています。□
 - 有価証券等の評価基準及び評価方法□
 - ①田資金のうち、市場価格があるもの
会計年度末における市場価格をもって貸借対照表価額としています。
 - ②田資金のうち、市場価格がないもの
出資金額をもって貸借対照表価額としています。□
ただし、市場価格のないものについて、出資先の財政状態の悪化により出資金の価値が著しく低下した場合には、相当の減額を行うこととしています。
なお、出資金の価値の低下割合が30%以上である場合には、「著しく低下したとき」に該当するものとしています。□
 - 有形固定資産等の減価償却の方法□
定額法により算定しています。
-
-
- 引当金の計上基準及び算定方法□
 - ①徴収不能引当金□
長期延滞債権、未収金、貸付金等の徴収不能に備えるため、徴収不能引当金を計上しています。□
 - ②賞与等引当金□
翌年度6月支給予定の期末・勤勉手当等について、それぞれ会計年度の期間に対応する部分を計上しています。
 - ③退職手当引当金□
期末自己都合要支給額を計上しています。□
 - リース取引の処理方法
ファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じて会計処理を行っています（少額リース資産及び短期のリース取引には簡便的な取扱いをし、通常の賃貸借に係る方法に準じて会計処理を行っています。）。□
 - 資金収支計算書における資金の範囲□
現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物（3ヶ月以内の短期投資等）を資金の範囲としています。□
このうち現金同等物は、短期投資の他、出納整理期間中の取引により発生する資金の受払いも含んでいます。□
 - その他財務書類作成のための基本となる重要な事項□
消費税等の会計処理は、税込方式としています。ただし、一部の連結対象団体（会計）については、税抜方式によっています。□
 - その他連結財務書類作成のための基本となる重要な事項
連結対象団体（会計）間の繰上繰出額及び債権債務額等を相殺消去した金額で表示しています。

重要な会計方針の変更

該当する変更はありません。

重要な後発事象

該当する事象はありません。

偶発債務

該当する債務はありません。

追加情報

(1) 連結対象団体（会計）

団体(会計)名	区分	連結の方法	比例連結割合
水道事業会計	地方公営企業会計	全部連結	—
下水道事業会計	地方公営企業会計	全部連結	—
国民健康保険特別会計	地方公営事業会計	全部連結	—
介護保険特別会計	地方公営事業会計	全部連結	—
介護保険特別会計（介護サービス）	地方公営事業会計	全部連結	—
後期高齢者医療特別会計	地方公営事業会計	全部連結	—

①地方公営企業（事業）会計は、すべて全部連結の対象としています。

(2) 出納整理期間

地方自治法235条の5に基づき、出納整理期間を設けられている団体（会計）においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

なお、出納整理期間を設けていない団体（会計）と出納整理期間を設けている団体（会計）との間で、出納整理期間に現金の受払い等があった場合は、現金の受払い等が終了したものと調整しています。

(3) 表示単位未満の取扱い

千円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。